

明言 深聞

ずばり答える
本音を探る

海外でビジネスを展開する日本人経営者でつくる「和僑会」の第2回アジア大会が25、26の両日那覇市内で開かれた。中小企業・ベンチャー企業の代表や海外への事業展開を目指す若手起業家らが「連携の和」をさらに拡大する方針を確認した。2004年に香港で初めて和僑会設立を呼び掛け、国内外の会のまとめ役を担う和僑会本部会長の筒井修氏に、活動の可能性を聞いた。

和僑会本部会長

筒井 修氏



つつい・おさむ 1943年三重県生まれ。67年名鉄百貨店入社、84年香港名鉄有限公司総経理として香港に赴任。99年、香港名鉄の撤退と同時に太陽商事有限公司を設立。香港貿易発展局顧問を務める。2005年、中小企業向け中国進出ウェブサイト「JCDIRECT 21.NET」を開発。工場進出などのコンサルティング事業も手掛けている。

失敗して日本に帰って行く現状がある」
「原因はちよつとしたもの、考え方の違いや(海外の)法律関係を知らなかったというささいなこと。先輩経営者として、つまずかないようにサポートしたいという使命感のようなものだった。かつて、貧しい中で海外に出ざるを得なかった華僑が、皆で助け合ってネットワー

クを築いたように、日本人にも助け合いが必要だと感じた」
「海外で事業を展開する意義とは。」
「世の中は、人、モノ、情報が世界を駆けめぐるグローバル社会になったのに、日本の社会は低迷し、中小企業が大変苦しんでいる。日本の市場だけでやっついては、次第に立ちゆかなくなることは目に見えている。

世界中の日本の起業家たちと交流を結ぶことで、スムーズに海外へ事業を広げることができるのではないか」
「中国と日本の間ではたびたび政治的な問題が起こり、経済活動にも影響を及ぼしている。中国人も日本人も互いを理解し合わなければならぬ。日本的な価値観で相手を見ると簡単にだまされたりする。中国人

「共存共栄」 事業成功の鍵

や中国企業のことを良く知る努力が大切だ。物の考え方の根本や、育った原点が違うことを知った上で付き合えば、信頼関係や深い絆が生まれる」
「アジア大会を沖縄で開いた成果は。」
「今大会の『琉球から日本を変える』というテーマには、大きな願いがこもっている。日本人は『景気が悪い』と心を閉ざしているが、隣の中国や香港の人たちは『生涯最大のチャンス』と前向きに挑戦する気概を持っている。歴史的に人や物の交流拠点だった沖縄の地の利を生かして、日本に『チャンスだ』と呼び掛ける役割を果たすべきではないか」

「今後の目標について。」
「事業は多くの人の助け合いがあって初めて成り立つ。一人一人が経営者でそれぞれ思いも違い、まとめるのは容易ではないが、『和をもって貴しとなす』『共存共栄』の精神を大切に、ネットワークをどんどん広げていきたい」

「会設立のきっかけは。」
「香港でビジネスをする仲間5、6人で集まり、企業訪問や勉強会を重ねる中で生まれた。海外では特に若い起業家が、せっかくなってきたのに事業展開を

「聞き手」政経部・座安あき